

大牟田市立総合病院

「第3回経営形態検討委員会（議事要録）」

1. 日 時：平成19年6月25日（月）15：00～17：00
2. 場 所：市立総合病院大会議室
3. 出席者：池田、嶋田、下川、永利、西村、信友、山口各委員  
（事務局）肥川、村中、東川  
（オブザーバー）中山院長、野口・森田・末吉各副院長、村上看護部長、  
島内事務局長、田中総務課長、國崎医事課長、吉田主査、石橋主査

4. 議事概要

開会に先立ち、第2回委員会で嶋田委員から提案のあった委員全員での病院見学を14時から約1時間、下川・西村両委員を除く5名の委員で行なった。

委員会冒頭に事務局より第1回及び第2回で資料要求のあったものについて提示。市の長期の財政見通しについては第1回で提示した資料以外には資料がない旨説明したところ、地方公共団体の新しい財政指標（連結実質赤字比率等）についての提示を求められた。

続いて、事務局（理事）から、主に病院の財政状況について資料に基づき説明を行い、「当院は、新病院建設直後の減価償却費の負担増による財政悪化で赤字が膨らみ、17、18年度でやや内部留保資金は増加したものの、減価償却費を赤字で食いつぶす事業構造」と説明。委員会では主に病院の財政状況に対する質問が相次ぎ、今後の病院の財政見通し、市の財政状況が厳しい中、今後も繰入金が続けられる見込みがあるのかどうか、といった財政問題を中心に意見が交わされた。

議論の概要は以下のとおり。

病院の財政状況について

「新病院建設において当時50億円くらいの年間収益に対し、約3倍の150億円をかけるという過大な設備投資をしており、その負担が経営に重くのしかかっている。」「繰入金がなければ財政的に破綻している。」などの意見が出された。当院からは繰入金の趣旨について補助金ではなく、負担金という性格であることを説明したが、市の財政状況が厳しいため、今後も繰入金が継続するのか疑問視する一方、長期借入金については市と病院の責任配分を明確にすべきとの意見が出た。今後の経営形態検討にあたり、市からの繰入金が前提とできるのか、全くゼロとみなして検討しなければならないのか、それにより議論の展開が全く違ってくることを示唆された。

民間病院との給与比較資料について

提出していた資料が企業規模500人以上でかつ事業所規模50人以上であったことから、もう少し小さい企業規模と比較すべきとの意見が出され、資料再提出の要望があった。

その他

当院が担っている診療内容がどういう水準にあるか見極めるため、診療単価について同規模の自治体病院と比較した資料について要望が出された。

以上の議論を受けて、第4回委員会では、市の財政指標（新しい指標での数値）、同規模病院との比較資料、民間給与との比較資料（再提出）などの資料をもとに議論が行われる見込みである。

以上（文責：信友）